

令和2年度 さぎなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言発令により、家庭保育の協力願いが発表され、少人数での新年度スタートとなった。子どもたちの健康や安全を守るため、職員全員で感染予防対策を実施した。保育室や園庭、備品や玩具等の消毒をより丁寧に実施。室内では、換気を十分に行い、保護者に対しては保育室への立ち入りをご遠慮してもらい、送迎の際は検温チェックとマスクの着用をご協力いただくことができた。
- ・戸外活動が制限され、子どもたちの体力づくり（散歩、戸外遊びなど）が思うように進まなかったが、室内で体を動かす遊びを工夫することができた。
 - ①毎朝、園内放送で体操やダンスの取り組み
 - ②運動遊び（平均台、バランス遊び、リズムジャンプ）
 - ③リトミック
- ・制限解除後は、散歩コースや距離を見直し、散歩に出る機会を増やすことで、子どもたちの脚力強化に努めることができた。
- ・保育者は、日々の保育業務に加え、感染予防対策に努めながら、子どもの発達に寄り添った保育を計画し子どもの健康と安全に配慮した保育実践をすることができた。
- ・前半は、園外研修が中止となることが多く、参加することができなかったが、その分、園内研修を充実させた。各ミドルリーダーがキャリアアップ研修で学んだ知識をその他の保育者に園内研修を通して伝え、保育者の知識や技術の向上に努めることができた。
- ・園内研修では、日々の保育を振り返り、保育を見直す機会が多く持てたことが保育の質の向上に繋がった。
- ・後半は、リモートでの園外研修に積極的に参加し、知識や技術、保育の質の向上に努めることができた。
- ・園内行事は、縮小することを余儀なくされたが、新型コロナウイルスの感染拡大と感染予防対策を十分に考慮しながら、開催することになった。その際は、保護者へ検温チェックやマスクの着用、行事参加人数の制限についてご協力依頼をおこない、職員は、会場内のこまめな換気や消毒、また参加者が密にならないように座席数を制限し、距離を取ることを意識した。

畑の活動 ⇒ 園外活動が制限されたことによって、例年より畑活動の開始が遅れ、畑や園庭菜園の整備が思うように進まず、野菜の苗植え時期がずれることとなった。

園庭菜園では、オクラ・トマト・きゅうり・ゴーヤーを植え、生長観察と少量であるが収穫を体験することができた。ゴーヤーの苗が生長すると、保育室に緑のカーテンができ、子どもたちは、収穫を楽しみに待つ姿がみられた。

畑では、すいか・とうがん・かぼちゃ・なす・ピーマンを植えるも、不作のために収穫には至らなかった。そのことから、畑や野菜の手入れをすることの重要性を痛感した。後半の時期には、じゃがいもの植え付けを行い、畑や園庭菜園で、たくさん収穫することができた。

収穫したじゃがいもを使って、各クラスで食育クッキングを行い、楽しく食育活動に参加できた。

田植えの活動⇒例年、親子や地域の人を交えての活動であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、保育者と子どもたちでの活動となった。

田植えの時期は、例年よりも遅れたが、子どもたちと一緒にもみの選別、稲の植え、田植え、稲刈り、脱穀と一連の流れを体験することができた。また、もみの選別では、選別の際に使用する海水を泡瀬干潟まで散歩をしながら汲みに行き、体験することができた。

収穫できたお米は、わずかであったが、子どもたちと一緒にもちつき会を行い、鏡餅を作って楽しむことができた。

田んぼ活動を通して、土や稲に触れ、稲が生長する喜びや楽しみを、身をもって学ぶことができた。また、泥土に触れ、感触を味わい、水の中の生き物を観察することができた。

●今年度の気づき

- ・どのような状況でも、悲観的に捉えず、その状況の中で環境設定を工夫し、保育実践を行うことが重要であると気づかされた。
- ・食育活動をはじめ各行事など、例年のように実施することは困難であったが、おかれた環境の中で、様々な体験をして工夫したり、考えたりと、保育者にとって成長に繋がったと感じる。今後も、子どもたちの成長を見守りながら、保育者ひとり一人が日々精進できるよう、保育実践に取り組んでいきたい。
- ・畑や園庭菜園など、子どもたちと一緒に参加することができた。また、田植えや稲刈り、もちつき会など、例年より縮小した行事であったが、子どもたちと楽しみながら参加できたことは良かった。

●次年度の目標

- ・今後も報告・連絡・相談に加えて、確認を確立し、各クラス間から園全体での情報を共有し、方向性を定め、保育計画・保育実践に繋がれるようにする。
- ・どのような状況、環境の中でもそれを前向きに捉え、保育の基本である、観察、記録、工夫、計画、行動をしっかりと実践していく。
- ・食育リーダーを中心に食育研修に参加し、そこで学んだことを他の保育者と共有しながら、食育活動を継続する。また、保育者は、食育活動の記録を残し、掲示物等で、園での食育の取り組みについての情報を、保護者に対して発信する継続していく。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、日々の保育業務に加え、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、保育室や園庭、備品や玩具等の消毒、換気、環境調整など、おかれた環境の中で日々考え、努力しながら、保育実践に繋げることができたと思う。

また、報告・連絡・相談・確認、情報共有の重要性や、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組むことの大切さを実感し、園内外の研修における学びの場の大切さを実感することができた。

今後の保育実践において、保育計画に基づき、遊びや食育活動、戸外活動を通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋がっていききたいと思う。